

報告タイトル

「社会主義中国における農村医療モデルの構想と実践：はだしの医者为例に」
Conception and Practice of Rural Medical Model in Socialist China
---The Case of Barefoot Doctor---

氏名(所属)

姚毅 (大阪公立大学客員研究員)

Yao Yi (Osaka Metropolitan University /Researcher)

要旨(800字程度)

本報告は湖南省 B 村を事例に、集団化時期のはだしの医者及び農村合作医療を考察する。集団化時期の農村合作医療及びその担い手であるはだしの医者に関する研究は、21 世紀に入ってから活況を呈し、多くの成果をあげている。これらの研究の多くは、農村合作医療及びはだしの医者は、政治的産物であるが、医薬不足の貧しい農村に非常に適合した制度で、高い成果を得、世界的にも高く評価された制度であった、と称賛している。近年政治動員式の医療モデルの不安定性と持続不可能性、はだしの医者の訓練の不足などから、制度そのものに対する疑問や批判の声も出ている。しかし、評価と批判に関わらず、殆どすべての研究は、以下の点で共通している。第一に、はだしの医者の養成は「農民の需要を答えるためだった」と認識していること、第二に、ジェンダー視点での研究がなかったこと、第三に、殆ど先進地域を事例としていたこと。

報告者は、長い間先進的とは言えない湖南省の B 村でフィールド調査をし、当時の村長、はだしの医者、村民、及び周辺村のはだしの医者に半構造化インタビューをしてきた。本報告はこうしたフィールド調査に基づき、B 村のはだしの医者及び合作医療の制度と実態を明らかにしながら、以下のことを検討する。第一、「人民に奉仕」し、農村の医療衛生慣習を変えようと教え込まれた「はだしの医者」と村民の病気・健康に対する認識の間のずれに注目し、農村の医薬の欠如という現実を即座に農民の需要に置き換え、さらにそれを答えるために政策を制定した、という今までの語りを検証する。第二に、B 村は政策に従い、女性のはだしの医者を養成したが、そのはだしの医者は村の慣習より実際期待されていた助産の仕事をしなかったことの意味を検討する。

以上の考察を通じて、集団化時代にける、国家政策が鄉村社会に融合・浸透するか否かの内面的論理を把握し、はだしの医者の評価及び歴史像の複雑さを示したい。